

家庭集会

6月はロータリーの親睦月間です。本日は、一年間の会員の皆様のご活躍を労い、そして、次年度を迎える為の家庭集会となっています。

池田委員長をはじめ今年度親睦委員会の皆様による最後の事業として、大変お世話になりますが宜しくお願い致します。

家庭集会とは Home Meeting の訳で、1930 年代にシカゴ RC の会員の自宅で、新会員の啓発を目的にした非公式で私的な集いとして始まり、後に世界に広がったものです。

家庭集会は、炉辺会合 (Fireside Meeting) とも称され、元々、非公式な集いであるので、開催のすべてのルールは各クラブの任意となっています。

ポール・ハリスは 1907 年から「最初に親睦があって、その上に奉仕があるべき」と考え、奉仕を重視して来ましたが、それでは親睦が成り立たなくなる現状を見て、親睦と奉仕は同レベルであるべきと認識を改め、1911 年、ロータリーの機関誌である THE NATIONAL ROTARIAN 誌に、「ロータリアンは何かと問われれば、寛容と答える」と述べ、ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿ると唱えました。このことを念頭に、本日の親睦が明日の奉仕に繋がれば幸いと考えます。

また、本日の家庭集会は、この度入会して頂きました田中会員と青田会員の新会員歓迎会も兼ねており、新会員の啓発という家庭集会の本来の目的に沿うものとなりました。

最後になりましたが、会員の皆様が和やかな雰囲気の中で親睦を深めて頂きながら、この一年を振り返って頂き、また、ロータリーについて様々なアイデアを交換する機会となって、間もなく始まる片岡年度につながることを期待したいと思います。

それでは、楽しいひとときをお過ごしください。